

(別紙様式)

(A3判横)

令和3年度学校自己評価システムシート(県立秩父特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒同士の学び合い、教職員同士の学び合いを推進する学校 児童生徒が心身共に健康で、持てる力を発揮できる学校 児童生徒が将来への自信や生きがいを感じ、自立(自律)できる生活力を育成する学校 児童生徒と教職員・地域が、元気で笑顔の絶えない、共に暮らしながら成長する学校
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標	1 児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実践し、専門性を向上させる。 2 保護者・地域の学校等関係機関との連携を密にし、交流及び共同学習、支援籍学習、現場実習、研修会、巡回相談の内容を充実させて、地域の特別支援教育に貢献する。 3 児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	9名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標							実施日 令和4年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	校内での研修会の充実、ICT機器を活用した授業の取り組み、教材データの共有活用が進み教育力の向上につながっている。引き続き秩父スタイルの指導体制で指導支援の充実を図る。また、新学習指導要領に示された観点別評価について、根拠に基づく指導支援を確立するためにその方法を検証、検討していく。	指導支援の専門性の向上	①各学部は自立活動部と連携し自立活動の視点を踏まえた授業実践を行う。 ②学校研究テーマに基づき各学部で授業研究を行い、課題や成果を共有する。 ③新学習指導要領に示された観点別評価について各学部で検証、検討を行う。	①自立活動部と連携し自立活動の視点を踏まえた授業実践を行ったか。 ②学校研究テーマに基づき各学部で授業研究を行い、課題や成果を共有したか。 ③各学部は観点別評価について検証検討したか。	PDCサイクルを徹底することで指導支援の専門性の向上を図ってきた。評価項目はおおむね達成できた。 ①自立活動部と連携して作成した指導計画に基づき授業を実践した。 ②タイムリーに参観できない職員のために録画した授業を視聴する方法を取り入れ授業研究を行った。 ③各学部、指導内容表を作成、活用して単元計画の共通化を図るとともに、評価観点も共通化を図り検証、検討を行った。	A	・自立活動部による職員研修や指導計画作成への支援を継続して行う。 ・他校とオンラインで研修会を共有する取り組みを継続して行い、多様な視点で実践を振り返り、専門性の向上に役立てる。 ・各教科領域の指導内容表を整えること、評価の観点や評価規準を明らかにして指導計画や指導案を作成し授業を行う。	・コロナ禍でICTの活用が叫ばれ、目を背けられない状況である。自分の子供を見ていても、活用していくことで世界が広がっていく。すでになくてはならないツールである。使い方を身に着けも次々に新しいものが出てくる。そんな中で、校内に知識技能に長けた人がいるのはうらやましい。
	GIGAスクール構想でICT機器の整備や活用環境が整備された。家庭での活用も踏まえ校内でのルールを整えると共に、児童生徒の実態に応じた指導に活用していく。	ICTの活用	①通知に基づき暫定的に校内ルールを定める。 ②児童生徒の実態に応じた活用を実践しながらルール運用上の課題を各学部で洗い出す。 ③家庭に対し進捗状況を伝えると共に、家庭での活用に応じた課題を把握する。 ④他校とも情報を共有しながら運用上の課題を解決し、校内ルールを整える。	①暫定的にルールを定めたか ②ルール運用上の課題を洗い出したか。 ③家庭に進捗状況を伝えると共に、活用にあつた課題を把握できたか。 ④運用上の課題を解決し校内ルールを整えたか。	本校の児童生徒の実態に合わせた学習活動でのICTの活用はほぼ達成できた。 ①タブレット端末の取り扱いについてルール化をし、アプリ活用の研修を行った。 ②個人情報の取り扱いが想定以上にICTの活用を制限することが分かった。 ③各家庭のICT活用に係る環境調査を5月に実施し、活用上の課題は把握できた。 ④セキュリティポリシーを踏まえつつ、慎重に運用ルールを整えた。	A	・校内ルールを遵守しながら、新たな課題は検討し、効果的な運用へ改善する。活用に関する研修を行った実践事例を蓄積する。 ・他校の取り組みを情報収集し本校の取り組みに生かす。 ・機器の保守管理運営について、関係部署で役割を明確化して取り組む。	・ICTは非常に便利であるという認識を持っている。ペタランも何とか対応している。まだまだ使い方に関する研修が必要なので研修を積み段階的に進めている状況である。秩父特支とはオンラインで交流会を行った。子供たちは非常に楽しみにしている。実際に会って活動したいが、今は我慢の時期である。
	昨年度作成したランドデザイン(試案)に基づく教育活動の成果と課題を検証し完成版にする。	ランドデザインの完成	①試案で整理した目標達成に向けた具体的方策を学校自己評価システムシートに反映させる。 ②試案に基づく具体策の進捗状況を踏まえ、成果と課題を検討し、完成版を作成する。	①具体的方策を学校自己評価シートに反映させたか。 ②成果と課題を検討し完成版を作成したか。	ランドデザインを完成させた。 ①反映させるにはより具体的な評価指標が必要であった。 ②反映させるべく項目ごとの評価指標を整理し、完成版とした。	A	・次年度の学校自己評価シートには、整理した評価項目、評価指標を反映させる。また、評価指標は適宜見直し改善をする。	・教育現場とは異なるので答えにくい、目標設定を行った達成できているということはずばらしい。ICTの活用はこれからますます必要になる。難しい面もあるが活用に向けて取り組んでいたければ、と思う。
交流及び共同学習や支援籍学習、現場実習などコロナ禍ではあるが、相手校や事業所、企業との調整を行い、実施形態を工夫するなどして継続して実施する。	交流及び共同学習、現場実習等の実施	①感染防止を第一に考え、実施の可否については感染状況を踏まえ相手方と調整を行う。 ②リモートでの活動など実施形態を工夫する。 ③進路指導に関しては、ハローワークや福祉課など関係機関と連携をして情報を収集し職場開拓につなげる。	①感染状況を踏まえ調整を行ったか。 ②実施形態を工夫したか。 ③関係機関と連携して情報を収集し職場開拓につなげたか。	コロナ禍での方法を工夫し、回数は制限されたが継続的に実施できた。 ①交流学習、支援籍ともに相手方と調整を行い、感染状況を踏まえ実施の判断ができた。 ②回数は制限されたがリモートで実施できた。 ③雇用対策協議会、就労支援センター、雇用総合サポートセンター等からの情報で事業所、企業の新規開拓ができた。また、コロナ禍ではあったが各事業所には現場実習を受け入れていただけた。	A	・集団あるいは個人であっても直接交流は感染リスクを伴うので、今後も状況によってはリモート交流など代替手段で交流を継続する。 ・関係機関と連携を図って福祉事業所、企業の新規開拓に励む一方、卒業生の就労実績がある事業所や企業に対し現場実習の受け入れを働きかけていく。	・交流学習は子供も楽しみにしている。コロナ禍で小学部も中学部も交流はリモートになった。高等部も沖縄の学校とリモート交流を行ったと聞き、ICTの活用はすごいと思った。高等部の現場実習は進路だよりで伝えているが、子供たちの将来を考えると、このような状況下でも実習を受け入れてもらえてありがたい。 ・コロナ禍の現状で交流や実習は難しいとは思いますが、意義あることなので引き続き取り組んでいただきたい。	
地域の特別支援教育の拠点として地域教育支援専門家チームの活用を行ってきた。活用の一層の促進を運営委員会で推進していく。	専門家チームの活用	①教育的ニーズを把握するために専門家チームのパフォーマンスをわかりやすく伝える。 ②地域の教育的ニーズを踏まえ、専門家チームの活用を調整する。	①専門家チームのパフォーマンスをわかりやすく伝えたか。 ②ニーズを踏まえ活用を調整したか。	専門家チームによる研修会1回、巡回相談は本校で活用した。 ①本校HPで紹介しているが、学区内の諸学校へのアンケートから、専門家チームの情報が周知されていないことがわかった。また、地域でのニーズが増えていることもわかった。 ②学区内の諸学校に研修参加を呼び掛けた。	B	・専門家チームの活用にあたり、情報提供の方法を工夫する必要がある。アンケート結果からニーズのある学校に対し、年度当初直接情報提供を行ったり、リモート研修で感染防止対策を行ったりしながら、専門家チームのメンバー全員に研修会を担ってもらえるよう方法を工夫する。	・コーディネーターには何度も本校にお越しいただいている。教員、保護者に丁寧なお話やアドバイスをしていただいた。この部分の評価は十分「A」だと思うが、周知ができていないということだった。秩父の教育研究会が近々あるので各校に情報提供したい。また、月に1回校長会が開かれているので、その場でお話をさせていただく機会を作れば周知できると思う。	
新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、感染防止対策を引き続き行い、教育活動を途切れさせない。昨年度引き渡し訓練を実施し成果と課題が明らかになった。今年度は、防災マニュアルを改訂し、防災体制全般を見直す。	安全、安心な学校運営	①感染防止対策を引き続き実施する。保健指導や感染防止対策の取り組み状況を確認する際は学校医の助言を参考に改善を図る。 ②引き渡し訓練の成果と課題を踏まえ、防災マニュアルの改訂も含め、防災教育全般を見直す。	①取り組み状況を確認する際、学校医の助言を得て改善できたか。 ②防災マニュアルの改訂を含め、防災教育全般を見直したか。	安全、安心な学校運営はほぼ達成できた。 ①学校医の助言を得ながら感染を未然に防ぐ観点から対策を見直し、S B乗車時の検温を行った。 医療的ケアが必要な生徒の安全指導については主治医や相談医の指導助言を仰いだ。 ②防災マニュアルを改訂、教職員による防災訓練を実施した。不審者対応を見直して訓練を実施した。昨年に引き続き引き取り訓練を実施した。緊急一斉メールを整備した。	A	・感染防止対策を引き続き行っていく。 ・学校医の助言を受けながら、児童生徒の健康観察、教職員の健康管理を行う。 ・学校行事の実施は県のガイドラインに基づき判断をしていく。 ・見直しをしたマニュアルに基づいて訓練を実施し、適宜見直しを図る。	・本校では1学期に実施した。感染防止の観点からは、広い校庭で行ったこと、天候に恵まれたことで無事に実施できた。いろんなパターンを想定して実施できれば良い。屋根の下でということと見直しを図ることも必要。 ・校内で濃厚接触者が発生した際の連絡対応は早く、素晴らしい、助かっている。利用している事業所からも連絡がすぐに入り、学校との連携もすごい。先生方は大変でしょうが一生懸命やっってもらっている。 ・学校の感染症対策、よく対応されている。	
日常生活や地域での生活が充実するよう一層福祉事業所や行政機関と連携する。医療的ケアの必要な児童生徒の放課後、卒業後の活動場所については引き続き各市町に働きかけると共に秩父地域自立支援協議会に参加し引き続き協議をしていく。また、ロードサポート事業への取り組みなど地域貢献活動を推進する。	地域、関係機関との連携	①児童生徒の実態や保護者のニーズを福祉サービスの充実や就労に関する実情や要望を引き続き行政機関に伝える。 ②感染防止対策をとり可能な範囲で地域貢献活動を推進する。	①実情や要望を把握し、行政機関に伝えたか。 ②感染防止対策を図りながら地域貢献活動が実施できたか。	コロナ禍ではあったが、地域の関係機関との連携は滞ることなく実施できた。 ①秩父地域自立支援協議会(運営会議、各部会)に参加し秩父市手をつなぐ育成会、PTAとともに要望書を作成し、2月2日、1市4町の首長に提出した。 ②市役所での作品展示会、コロナ禍であり教員のみではあったが道の駅で初めての販売を行った。また、ロードサポート事業は7回実施した。	A	・行政機関への要望は、即時改善が図られるわけではないので、秩父地域自立支援協議会や手をつなぐ育成会との連携を図り、粘り強く働きかけていく。その際、他地域の取り組みを参考にするなどして要望を具体化していく。 ・地域への貢献活動として展示会に加え販売会が加わったので、継続して実施ができるようにする。	・肢体不自由の生徒の進路について、特に医療的ケアの生徒の卒業後の受け入れについて、事業所の今後の受け入れはとても厳しい。地域で解決したい大きな問題である。先日いただいた要望書を基に自立支援協議会で次年度も検討していきたい。 ・保健所の対応も厳しい状況なので事業所内で判断しているかざるを得ない。抱えているリスクは同じ地域で同じなので学校の休業の基準など頼っている部分がある。支援学校とも連携で成り立っているの、支援学校の判断基準を参考にさせていただいている。	